

第53回基本方針策定タスク 議事録

1.日 時：平成 29 年 2 月 27 日(月) 13:30～16:30

2.場 所：日本電気協会 6 階 609 会議室

3.出席者：(順不同, 敬称略)

出席委員：阿部主査(NUSC 幹事/東京大学), 高橋(NUSC 副委員長/電力中央研究所), 波木井(NUSC 委員/東京電力 HD), 上山(安全設計分科会幹事/関西電力), 白井(耐震設計分科会幹事/関西電力), 山田(構造分科会幹事/中部電力), 渡邊(品質保証分科会幹事/原子力安全推進協会), 大山(原子燃料分科会幹事/東京電力 HD) (8名)

代理出席：丸山(日本電気協会, 荒川代理) (1名)

欠席委員：越塚(NUSC 委員長/東京大学), 和田(放射線管理分科会幹事/日本原子力発電), 大平(運転・保守分科会幹事/日本原子力発電) (3名)

事務局：美馬, 井上, 飯田, 佐久間, 永野, 大村(日本電気協会) (6名)

4.配付資料

No.53-1 基本方針策定タスク委員名簿

No.53-2 第 52 回基本方針策定タスク議事録 (案)

No.53-3-1(1) 規格策定プロセスの透明性・公開性の一層の確保に向けた取り組みについて (案)

No.53-3-1(2) 規格策定プロセスの透明性・公開性の一層の確保案に対する品質保証検討会からのコメントに対する対応方針

No.53-3-2 誤記発見時の対応手続きの明確化について (案)

No.53-3-3 学協会規格整備計画の見直し案 (NISA 報告書等「52 項目」+新規制基準ガイド等) 2017 年時点の評価 追加版

No.53-3-4(1) 平成 28 年度活動実績及び平成 29 年度活動計画 (案)

No.53-3-4(2) 平成 29 年度各分野の規格策定活動 (案)

No.53-3-5 第 4 回 日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウム プログラム (案)

No.53-3-6 原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱見直し方針 (案)

No.53-4-1(1) 検査制度見直しに係る規格類意見交換の場の設置について (ご依頼) (平成 28 年 12 月 6 日 電気事業連合会 原子力部長)

No.53-4-1(2) 検査制度見直しに係る規格類意見交換の場の設置について (回答) (平成 28 年 12 月 13 日 日本電気協会 原子力規格委員会委員長)

No.53-4-1(3) 第 1 回 検査制度見直しに係る規格類意見交換会 議事録 (平成 28 年 12 月 22 日)

No.53-4-1(4) 第 2 回 検査制度見直しに係る規格類意見交換会 議事録 (平成 29 年 1 月 26 日)

No.53-4-2 電子ファイル (DVD) の預託・保管に関する運営規約

No.53-4-3 平成 28 年度各分科会活動報告

5.議事

(1) 定足数確認他

事務局から代理出席者の紹介があり, 主査の承認を得た。代理出席者を含めて出席委員は 9 名であり, 会議開催条件の総数の 2/3 以上(8名)を満たしていることを確認した。

(2) 前回議事録確認

あらかじめ確認を受けている資料 No.53-2 について, 特に意見はなく, 承認された。

(3) 審議事項

1) 規格策定プロセスの透明性・公開性の一層の確保に向けた取り組みについて (審議)

事務局から資料 53-3-1(1), (2)に基づき、規格策定プロセスの透明性・公開性の一層の取り組みについて説明があった。審議の結果、次回原子力規格委員会に上程することとなった。

(主な意見・コメント)

○資料 53-3-1(1)P3 少数意見の対応について (少数意見、・・反対意見等の対応で重要なものは解説等に記載してもよい。)

- ・公衆審査については対応の中に入るか。
- 公衆審査はいろいろな意見があるので、「等」で読むこととした。反対意見には対応する。
- ・誰が重要かどうかを判断するのか。
- 分科会・検討会が判断する。
- ・重要なものは議事録に残る。また、規格にも残ることとなる。SA-JEAG では後書きに入った。
- ・「してもよい」ということは、しなくてもよいということか。
- そのとおりで、判断が入ってくる。「してもよい」を「する」と変更することが考えられる。
- 記載するのであれば「重要なものは記載する」に変更すれば良い。
- ・分科会、規格委員会の内部はコンセンサスルールで成立されるのが基本で、再投票で行う場合には、重要なものを記載するというので、「してもよい」を「する」に変更すれば良いのでは。
- 書面投票で反対ということであれば、重要なものとする。
- 「規格の理解に繋がる場合は」の方が良い。反対意見に対する後書き等への記載に対しての提案であり、重要度よりも規格の理解に繋がる場合の方が良いのではないか。
- 3 役に相談し、重要な場合で落ち着いた経緯がある。
- ・あまり限定させすぎない方が良い。だれが判断するか等もあるので、書面投票における反対意見等への対応状況については規格の解説等に記載することができる、とした方が良い。
- 記載するかどうかは検討会、分科会で審議され、最終的に規格委員会で判断される。
- ・「重要なものについては」を削除し、「対応状況については解説等に記載することができる」とする。

○資料 53-3-1(1)別紙-1 1 項チェックすべき項目の順番について変更している。

- ・規格委員会では、変更案 5 番目の国内法令の動向が、1 番目にあった。日々の対応が 1 番目ではないかと規格委員会でご意見があったため、大きなものでなく、経験したトラブル等を 1 番目とした。
- 法を除外しているのではなく、盛り込んでおり、元の順番がよいのではないか。
- 項目は優先をつけたものではない。ここでは順番の議論はしない。

- ・(4)の国内規制の経験とは、技術評価のコメント等か。
- その通りで、規制庁のワーディングにも入っている。
- ・(3)研究・開発の「・」が気になる。
- and/or である。
- ・資料 53-3-1(1)別紙-1 3(2)で、「関連法令、規則改定」は改正に修正する。

○別紙-3

- ・3.1.7(7)「その論文名」を「その書誌情報」とする。
- ・諸外国の規制動向は、常にチェックしている訳ではなく、例えば、わざわざ行って確認している。
- チェック様式はフリーフォーマットで、添付は様式例である。項目を削除すれば良い。
- ・この様式は検討会の付議資料であり、分科会、規格委員会の参考資料となる。

- ・国内規制動向はもれなく確認できるが、諸外国の規制動向をもれなく確認することは難しい。
- 例えば、諸外国の規制動向で IAEA について確認した。すなわち、どこまでのデータベースを把握しているかとの理解で良いかと思う。チェックしたところを明確にすれば良い。
- ・添付 10 のチェックシートは網羅的になっており、そうであれば厳しい。
- 運転経験や国内外の研究・開発の成果は、PSR で要求事項があるのでやらざるを得ない。
- ・規格を作る際に参照すべきものは持っている。調べたというエビデンスは記載できる。
- ・年間計画の策定時、規格策定時に実施しているが、記録としては十分に残っていない。検討した結果を検討会の名前として記録に残しておくこととした。
- ・規格によって対象知見は明確である。品証では IAEA, ISO であり、ベースの規格が明確である。規格ごとに最小限の対象は明確である。対象となる知見、そこがうまく表現される必要がある。
- 知見があるときに、制・改定する。諸外国でどう解釈して制・改定したかのチェックは必要である。ある知見を契機として改定する。改定の仕方はいろいろで、諸外国のチェックも必要である。
- ・添付 10 で「最新知見の例は以下のとおり」とすれば良い。チェックシートが何もないときのよりどころで、本文でそれが読めるようにする。4.16(1)のワーディングを考慮する。
- ・「～参考とし、対象として国内外の～」に修正する。

○資料 53-3-1(1)別紙-4 細則について

- ・書面投票の公開性を向上。また、記録関係を大きく変更した。規格委員会と分科会は表に記載されていたが、規格委員会のタスク、分科会のタスク、検討会について、表に追記した。
- ・5. 検討会(6)の「参考にした」は「対象とした」に変更した方がいい。
- 拝承。
- ・事務局にて、コメントを反映し、各委員に送付する。

2) 誤記が発生したときのプロセスについて（審議）

事務局から資料 53-3-2 に基づき、誤記が発生したときのプロセスについて説明があった。審議の結果、次回原子力規格委員会に上程することとなった。

（主な意見・コメント）

- ・日本機械学会では文書があり、誤記の定義があった。そのため、誤記の定義を追加した。
- ・(2)で判断し、(3)で公表として、プロセスを明確に分けた。
- ・(1)(c)「次回の～行う」は(2)と重複している。(c)に以下は誤記とみなさない、と記載する。
- 拝承。
- ・機械学会ではエンドースされている規格については国に報告する。ただし、機械学会では誤記のグレード分けをしていない。
- 機械学会はグレード分けをしていないが、電気協会ではグレード分けは決定事項である。
- 誤記の定義は必要で、グレードを別に判断することは良いと考える。
- ・読点の変更は誤記ではないとしている。句点の変更はどうか。
- 両方誤記でないとして、読点を句読点に変更する。
- ・インデントの変更は誤記ではないか。
- 意味のあるインデントの変更はあるので、インデントの変更は「誤記ではない」から削除する。

3) 検査制度見直しに係る学協会規格整備計画（83 項目）の見直しについて（審議）

事務局から資料 53-3-2 に基づき、学協会規格整備計画の見直しについて説明があった。審議の結果、次回原子力規格委員会に上程することとなった。

(主な意見・コメント)

- ・3学協会，電事連に提示して検討するが，おかしいところがあれば修正したい。なお，本資料は検討会から直接タスクにいただいたものである。分科会で検討いただきたい。
 - ・新検査制度関係では，H-18 で燃料を追加している。
 - ・新検査制度に限らず，原子力学会では廃炉，埋設をやるべしとされていて追加される。国，安全委員会が定めた指針を取り込んで，83項目であったが，それらは優先順位が低くなり，その代り新検査制度関係に注力することとなる。83項目が何項目になるかは分からない。
 - ・3月2日の3学協会の協議会で，途中経過として報告する。
 - ・燃料関係は取替炉心だけで良いか。
- 追加を検討しているが，まだ燃料分科会で意思決定ができていない。

4) 平成 29 年度活動計画及び各分野の規格策定活動について（審議）

事務局から資料 53-4(1)に基づき，平成 29 年度活動計画及び各分野の規格策定活動について説明があった。審議の結果，次回原子力規格委員会に上程することとなった。

(主な意見・コメント)

- ・規格委員会審議事項となっている。
- 過去に，規格委員会で，分科会幹事が出席するようにとの指示があった。
- ・各事務局と各分科会幹事で調整し，分科会側から説明いただくこととする。
 - ・資料 53-3-4(2)は事務局で比較表の形にしたものである。規格委員会には比較表の形では出していないが，タスクでは比較表を提示した。
 - ・規格委員会では計画をまとめたものを報告事項としている。比較表を出す必要はないと考える。
- A4 の形で良い。
- ・運転・保守では，引用文献が入っている。
- 保守管理規程の引用で分かりやすくなっているが，今までにないパターンである。
- それで良い。
- ・燃料分野だけが関係箇所がなくなっている。他分科会では記載が残っている。
- 通常のコミュニケーションがあるのは当たり前である。記載しても良い。
- ・規格委の活動計画であり，毎年記載されているものは記載されていた方が良い。
- 検討する。ただし，分科会で議論したときに事務局からコメントいただければ良かった。

5) シンポジウムについて（審議）

事務局から資料 53-3-5 に基づき，シンポジウムについて説明があった。審議の結果，次回原子力規格委員会に上程することとなった。

(主な意見・コメント)

- ・最終的に調整して6月14日開催となった。次回規格委員会に上程する。タイトルを確定して良いか。パネルディスカッションもテーマも同じである。また，サブテーマは設定していない。
- 6月の段階で状況がどのようになっているか分からないので，あえてサブテーマは決めないこととする。

6) 原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱見直しについて

事務局から資料 53-3-6 に基づき，原子力関連学協会規格類協議会運営要綱見直しについて説明があった。

(主な意見・コメント)

- ・事務局の提案としては次のとおり。すなわち、規格類協議会を規格類会議と改称し審議することを明確にし、また、決議するので定足数の規定を明確にする。
- ・検査制度見直しに関連し、電事連と学協会との意見交換会を作って、ニーズの摺合せを行い、3学協会で規格を作成する。(資料 53-4-1(1)の添付資料-1)
- ・6月の規格委員会にお諮りすることを想定している。本日は紹介だけとする。

(4) 報告事項

1) 各分科会活動報告について(状況報告) (資料 53-4-1(1), (2), (3), (4))

事務局から以下の報告があった。

- ・電事連と3学協会の意見交換会に、大山幹事、山田幹事、大平幹事に出席いただいている。
- ・議事録は3/2の協議会で承認されればホームページにアップする。第2回議事録は資料 53-4-1(4)で、電気協会関係はJEAC4211, JEAC4111, 及び重要度分類が議論されている。また、JEAG4210にSA可搬型が入っていると説明した。電事連から特定重大事故対処施設が提案されたが、PP上規格化は無理であると答えている。
- ・3月6日に第3回意見交換会を予定している。83項目について電事連から対案が出てくる見込み。
- ・規制庁との意見交換については、規制庁から待つてほしいと言われている。

2) 電子ファイル(DVD)の預託・保管について(資料 53-4-2)

DVDの預託・保管に関する運営規約が12月13日付けで発行され、1月1日から運用が開始された。現在、JEAC4203-2008の数式のデータをPCV漏えい試験検討会からお預かりしている。

3) 各分科会活動報告について(報告)

- ・構造分科会：技術評価がのびのびとなっている。分科会長が交代される。吉村先生→笠原先生
- ・原子燃料分科会：分科会長が交代される。寺井先生→山本先生。
- ・品証分科会：規制庁からJEAC4111をエンドースするため、少人数で議論する場を設けてほしいとの要請を受け、分科会のタスクとして、規制庁と検討する公開の場を設けた。最終的な決定は検討会、分科会である。

(5) その他

- ・本日は電子情報主体のペーパーレスの打合せであった。ご意見をお寄せいただきたい。

以上